

テーマ  
「家族のきずな」

家族の団らんやほほ笑ましい光景など、子どもを囲んで家族のきずなを表現したもの

応募期限  
11月26日(木)(必着賞)

最優秀賞1点(賞金3万円)、優秀賞2点(賞金1万円)。応募者のなかから抽選で30人に図書券1000円進呈。発表は、『広報そうじゃ』1月号

**応募条件**

- ①応募者の家族を携帯電話のカメラで撮影した写真
- ②写真に写る子どもは、市内に在住の人
- ③応募作品は広報紙やホームページ、展示などで使用する場合があります

**応募方法**

メール文に「写真の題名、住所、氏名、電話番号」を書き込み、写真データとともに、kodomo@city.soja.okayama.jpあて送信する



問い合わせ 子育て支援係 (☎92-8268)

携帯写真コンテスト

子ども条例制定記念



応募先 QRコード

**山本** 子ども条例は11月15日から施行します。条例の第19条で毎月第3日曜日を「そうじゃ家族の日」と定めました。子どもを囲んで家族とのきずなを深める日としています。

**佐藤** 条例の施行は、11月の「そうじゃ家族の日」なんです。

**山本** そうです。子ども条例の制定を記念して、携帯写真コンテストを企画しました。携帯写真のカメラで家族の団らんや家庭のほほ笑ましい光景を写して応募してもらい、子ども条例を知っていただく

きっかけの一つになればと思っています。

**佐藤** 家族でゆっくり会話をする時間もなかなか取れない現代ですが、月に一度くらいは、そんな時間が取れたらいいですね。

◎条例を知ってもらおう

**山本** 条例を楽しく分かりやすく学べるよう、子ども条例の副読本を作ること考えています。会社や事業所の理解も必要ですので、周知活動に力を入れていきます。

**佐藤** 条例の対象が0歳から18



山本勉 子育て課長

歳未満の人で、年齢的にも開きがあるので、小・中学生には、さらに短く分かりやすい文章で、ルビを付いたりイラストを入れたりして楽しく読みたい副読本になることを期待しています。それから、11月15日からスタートということで、市民の皆さんには条例

が目指すところを理解していただき、深く浸透させていかなければなりません。

**山本** しっかり周知し、総社市の将来を担うべく、人を愛し地域を愛せる子どもを多くはぐくむことのできるまちの仕組みづくりを、一つひとつ着実に取り組んでいきます。

**佐藤** この条例で、これからますますそういう健やかなお子さんたちが育っていくように感じられます。今日は、ありがとうございました。

人も支援をしていくという示しています。

**佐藤** 子どもは、権利で示されていることを行い、それを学校や家庭、地域が支援する構図ですね。

**山本** そうですね。

◎「子ども会議」創設

**佐藤** 子どもの権利で「自分の意思を表す」というのがありました。子どもの視点から見ると、大人と違ってとても面白いというか、子どもらしい発想も出ると思うんですが。まちづくりに新風が吹くと思うんですが。

**山本** すべてを大人が決めて用意するのではなく、子どもからの意見や気持ちを大切にしていこうということで、子ども会議を作って、意見や提案を聞こうと考えています。

**佐藤** 良いことですね。

**山本** 今回の子ども会議での一般質問でも、子どもの立場として、ごみ袋やごみの関係、ダイオキシン、学校への冷房設備、体育施設の利用、いじめとか、不登校などの質問が

「子ども条例が目指すところを理解していただき、深く浸透させていかなければなりませんね」

市政モニター 佐藤洋子さん(山田)



ありました。やはり子どもの立場・視線で見える課題や提案があれば、そういうものをまちづくりに反映できれば良いと考えています。

◎地域の役割も重要

**佐藤** 地域の役割を担う私たちがどうしたらよいでしょうか。

**山本** 条例の第15条で示していますが、まず地域のなかで子どもを見守っていただきたいという願いがあります。「地域の大人たちがいつも子どもを見守っている」という連帯感をもつことが大きな鍵で、子育てというのは、地域づくりの基本だというふうにも思っ

ています。

**佐藤** 「子育ては地域づくりの基本」。いい言葉ですね。

**山本** お祭りや運動会が各地域で行われていますが、子どもたちに地域ならではの文化や自然の良さに親しませてやりたいですね。生まれ育った地域で幼いころに経験した思い出というのは、人間性をはぐくんで大きな影響を及ぼしていますから。

**佐藤** 地域によっては、もうすでに三世代交流などをされていますね。それから、親子でお料理を作ったり、地域独自の工夫した行事をしたりされていますけど、ますますそういうことが盛んになってほしいですね。

**山本** 三世代交流では、大人は子どもから若いエネルギーをもらい、子どもたちはお年寄りから生きる知恵をもらえる貴重なひとときになります。

◎「そうじゃ家族の日」

**佐藤** まち全体で子どものはぐくみを支え合うことを示した子ども条例ですが、具体的な取り組みを考えないといけま